

## 37 タビラクチ

(ハゼ科)

兵庫県ランク:A

*Apocryptodon punctatus*

環境省ランク:VU

## 種の概要

全長7cm程度。眼は体の背面に位置し、口が大きいことから、カエル類を思わせる顔つきをしている。内湾や河口の干潟の軟泥底に生息し、テッポウエビ類の生息孔を利用すると考えられている。三重県から宮崎県の太平洋沿岸、京都府以南の日本海、東シナ海沿岸、瀬戸内海に分布する。



写真提供: 兵庫県立人と自然の博物館(撮影: 増田 修)

## 県内における生息状況及びその他特記事項

県内での分布は局限されており、瀬戸内海側の1河川の河口域でのみ確認されているが、個体数は極めて少ない。なお、直近の確認記録は1993年であり、最近の生息状況は不明である。

## 保護上の留意点

本種の生息に適した軟泥底の干潟を含む干潟環境の保全が求められる。県内の生息地は局限されており、埋め立てや河道掘削による直接的な生息地の消失を避けるほか、生息地の上下流の改変により、河川や潮の流れ、土砂供給量の変化などを通して引き起こされる間接的な生息地の消失(本種の生息に適した底質の消失)にも留意する必要がある。

## 県内分布

赤穂市

## 主要な選定理由

|     |    |   |
|-----|----|---|
| 人為性 | 激減 | ○ |
|     | 環境 | ○ |
|     | 捕獲 |   |
|     | 遺伝 |   |
| 特殊性 | 特殊 | ○ |
|     | 孤立 | ○ |
| 学術性 | 極限 | ○ |
|     | 限界 |   |
|     | 希少 | ○ |



【執筆者】田中 哲夫・庄子 恭平・信本 励